被爆前の原爆ドーム、広島県産業奨励館　昭和初期
個人蔵

菊楽忍　（広島平和記念資料館学芸課職員）

1990（平成2）年から資料館に勤務。修学旅行を支援する啓発課では資料館ホームページを、学芸課では平和データベースの立ち上げ参加。（ITに強いわけではない）

研究テーマは原爆ドーム。被爆者の活動を私的に応援し、現在は「旧被服支廠の保全を願う懇談会」の事務局。

原爆ドームは、**市民・地域の後押し**で保存され、世界遺産になった

建築の専門家から評価される

戦災復興　危険構造物整理事業
ドームは危険物に指定され、取り壊し予定だった

被爆時の広島県都市計画課長
竹重貞藏氏が、1946（昭和21）年頃、

ドームは「原爆の惨状を後世に伝えるもの」、「独断でこのドームの取壊しを中止させ、予算を返上」した

佐藤禎子氏提供（佐藤重夫資料）

1949（昭和24）年、「平和記念公園及び記念館設計懸賞」

ドームは「存置する」、「シンボルとして残した」丹下健三氏の設計案が一等入選した

忌まわしい原爆の記憶 ➡ 未来へ警告する平和のシンボル

丸木位里「陳列館跡」 「中国新聞」
1950(昭和25) 年10月5日付

「見まい、思い出すまい、思い出すのはたまらない、見まいとしても見なければならない陳列館跡。わたしはこの陳列館をどうしたらいいか 」

1960(昭和35)年、白血病で亡くなった楮山ヒロ子さん 楮山国人氏寄贈

1959年8月6日の日記に「あの痛々しい産業奨励館だけが、いつまでも、恐べき原爆を世に訴えてくれるのだろうか」と記した

1961(昭和36)年1月15日
河本一郎氏撮影 黒瀬真一郎氏寄贈(河本一郎資料)

ヒロ子さんの日記に心打たれた「広島折鶴の会」の会員は、原爆ドームの保存運動を開始 1960(昭和35)年

中高校生の活動が市民・被爆者に広がる

1964(昭和39)年12月、広島原爆被害者団体協議会、核兵器禁止平和建設広島県民会議など11団体が原爆ドームの保存を求める共同提案

1966(昭和41)年7月、広島市議会は、原爆ドームの永久保存を満場一致で決議 (被爆後21年)

ドームは「核時代の記念塔」

自己紹介：多賀俊介（廣島・ヒロシマ・広島を歩いて考える会）

◎　１９５０年広島県呉市に生まれた被爆二世、広島の中・高等学校で社会科（地歴科）地理教員として生徒とフィールドワークに取り組むかたわら人権・平和教育にも取り組む

◎　２０１０年定年退職後、２０１１年秋より広島平和記念資料館ヒロシマピースボランティアになる。「放射線測定器」を持参されて資料館の遺品の放射線量を問われる来館者、広島に投下され爆発した原爆の放射線量と福島原発事故で発生した放射線量の比較を質問される来館者が多く、その不安な気持ちをうけとめながら、簡単に答えが出せない問題の説明に悩んだ。

爆心地から約2.7㎞にある旧陸軍被服支廠で被爆されたピースボランティア先輩の中西巌さんに声をかけられ、世界最大級被爆建物旧陸軍被服支廠倉庫保存運動に取り組んでいます。被爆建物を介した体験継承とも言えます。また、他の被爆建物ガイドもしています。

原爆ドームガイドで心がけていることは、できるだけ事実に基づいた「ものがたり」の力を生かす事

◎　１９５０年広島市の調査で原爆ドームをお金をかけてまで残す必要はないと思っていた市民が約４割弱いたこと。なぜ？と思い出したくないという被爆者の気持ちを考えてもらう→大川小学校被災校舎保存のことなど今もある同じような課題に繋げて考えてもらう。

◎　保存運動のきっかけになった楮山ヒロ子さんの日記と「折り鶴の会」の子どもたちの活動紹介→あなたは何ができるでしょう？と考えてもらう。

◎　世界遺産登録時の中国政府の「保留」に込めた投げかけ
→日本の加害の認識を含め世界的視野で考える必要性を喚起。　　など

被爆建物も多様な価値、側面を持つ。１Ｆ廃炉の遺跡だけでなく事故前後の関係場所、遺跡をできるだけ残すことが大切。そこをたどるなかで見えてくるものがあるのでは？

被爆建物は・・・

- **被爆前の町の姿と暮らしを伝え、被爆前後の歴史を繋ぐ道標。**
- **被爆時において、逃れ、人を捜した道標。**
- **被爆直後の救援や復興を支えた道標。**
- **建築・空間を通じて被爆の実相と体験を伝える道標。**
- **刻み込まれた記憶を読み解き、想像して、未来を考える道標。**
- **道標を頼りにヒロシマを歩こう。ヒロシマをさがそう。**

（山下和也、井出三千男、叶真幹　著「ヒロシマをさがそう－原爆を見た建物」2006西田書店）

シンポジュウム「広島原爆ドームの世界遺産登録と１F廃炉の将来像を考える」のパネル・ディスカッションに参加させてもらう私（多賀俊介）の戸惑い

- 福島の人の問いかけにヒロシマが応えられるものは何か？
- 広島で原発反対運動をしてきた被爆二世の友人は「福島原発事故発生はヒロシマの原発反対の努力が足りなかったから」と謝ったことが心に残っています。

自己紹介

高橋洋充（たかはし　ひろみつ）県立福島東高校　教諭（地歴・公民科）

・1971年（１Ｆ1号機稼働の年）生まれ。双葉郡浪江町出身（食堂の長男）

・「伝承館」には10回行ってます！

参加するにあたって（日頃考えていること）

○震災・原発事故から１０年半が過ぎましたが、その間私なりに考え続けてきました。
時が経つにつれ、今も気持ちは変化し続けています。

○この複合災害の「いたみ」は人それぞれです。「被災者」ということばも、地名や地域でくくることも、結局は行政の都合にすぎません。「当事者」というくくりも分断をうむ作用の方が大きいような気がします。そもそも電力を使用している限り、原発に関係ないひとはいません。

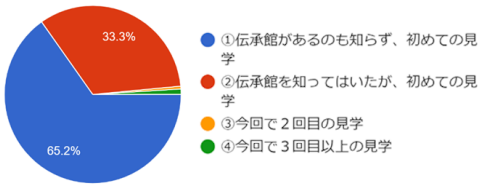
○行政の「最後は金目でしょ」の姿勢は地域や住民の主体性を大いに損なったと実感しています。

○このような事故を起こしてしまった世代のひとりとして、責任を果たしたいと思っています。
私は教育の現場にいますが、「子どもたちを使って大人の考えを言わせる」ことのないよう、日々気をつけております。

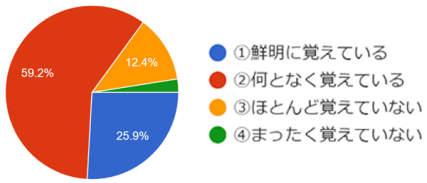
○伝承施設の「よりよき社会をを創る」機能にとても可能性を感じています。

「東日本大震災・原子力災害伝承館」見学前アンケートの結果から
（高校1年生6クラス参加230名、2021年10月4日実施）

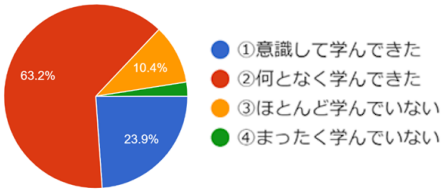
3　これまで伝承館を見学したことはありますか。
201 件の回答



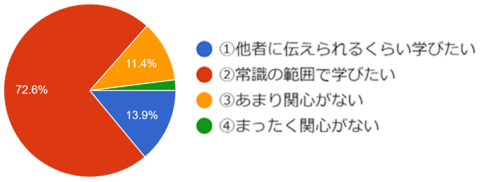
4　１０年前の震災・原子力災害をどの程度覚えていますか。
201 件の回答



5　これまで震災や原子力災害についての学びについて、どう取り組んできましたか。
201 件の回答

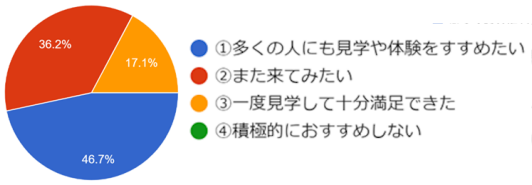


6　震災や原子力災害、廃炉などの学びについて、関心がありますか。
201 件の回答

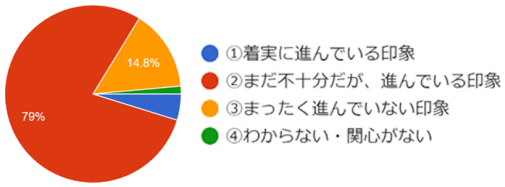


「東日本大震災・原子力災害伝承館」見学後アンケートの結果から
（高校1年生6クラス参加230名、2021年10月4日実施）

3　今回、伝承館見学やフィールドワークを体験して、どう感じましたか
210 件の回答



6　見学を終えて、10年たった現在の福島の復興について、どんな状況だという印象がありますか
210 件の回答



アンケートで「福島県の」復興の印象という問いかけで回答を求めた。見学前と見学後の変化を見ると、①着実に進んでいる、と④わからない・関心がないが**減少**し、②まだ不十分だが、進んでいる印象、と③まったく進んでいない印象が**増加**した。
現地を見学したことでの「百聞は一見にしかず」と「福島」と「フクシマ」の分断に気づけたか。

7　10年たった現在の「福島県の」復興について、どんな状況だという印象がありますか。
201 件の回答

※見学前

「よりよき社会」を創る伝承施設について

○見学者のエンパシーを育む
- 展示や見学ワークシート（解説端末コンテンツ）の工夫や仕掛けを。
- 見学者を伝承者に。

○次世代をつなぐ
- ホープツーリズムに加え、学校交流の橋渡しも。
- 「立場をもたない」個人のつながりの重要性。

○次世代へ教訓を伝え続ける
- 変化し続け、新たな問いが生まれる展示や仕掛けを。
- 全国（世界）にある伝承施設の連携・ユナイト・職員の交流などにより、失敗を繰り返してしまう制度や社会構造などを、抽象化して学べる仕掛けを。

○政策決定者への「伝声管」として
- 見学者の意見・感想のパブリックコメント化など。
- 多様な意見の議論・対話の場として。（税金で設置された施設だからダメ、はなし）

※これまでできなかったことが、ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）でできるようになっている・していく！

広島巡検を通して考えたこと

～多賀先生、菊楽さん、資料館の皆さまありがとうございました！

○福島と広島の違い

- 被爆前後の広島が中国地方の中心都市であるのに対し、福島県浜通り地域は、被災後も経済的に困難であり続けていること。
- 広島は被爆後、新・旧住民がすぐ戻り、市民自ら復旧・復興に着手できた。被災地域は住民不在のまま「降ってきたお金」を流しているように思える。（ビジョンが不明瞭）

○広島から学んだこと

- 震災遺構はできうる限り保存すべきである。現物を現地で観るインパクトは大きい。
  （更地になって何もない状態を保存するこも、原発事故の特殊性を後世に伝承する力になるのではないか。現在の浪江の町並みはまるで被爆直後の広島と重なる。）
- 「伝承者」は育成できるものではない。
- ヒロシマは被爆による教訓を普遍の価値「平和」に繋げている。
  フクシマの原発事故の教訓は普遍の価値の何に繋げることができるのか？

小磯匡大　自己紹介

・1982年双葉郡楢葉町生まれ　第二原発は身近な存在
・筑波大学院で民俗学専攻（地域知）
・福島県の世界史教員となり相馬高校で被災
・原発事故を下敷きに書いた
　小説『ネフスキーさん！』で県文学賞受賞（震災×芸術）
　「想像力はフクシマでいかなる力を持ちうるか？」
・2019年～ふたば未来学園に勤務（社会起業部・広島研修引率）
部員は地域を「知る・伝える・盛り上げる」ため
「語り部」の活動中→
・楢葉町（2015避難指示解除）に在住

原爆ドームとイチエフ廃炉の将来像について最近考えたこと（岐阜県瑞浪市　中京高等学校への寄稿をもとに）

原爆ドーム、やっぱりすごい存在感
熱線・爆風・あの日の暑さ・地獄の苦しみ…を想像し、戦慄する。
イチエフも更地でなく、見る者を2011年３月@フクシマに飛ばせる
想像力を推進させる遺構になってほしい

『遠野物語』にならえば
「願わくはこれを以って現代人を戦慄せしめよ」
でも待てよ…。

最近考えたこと

ヒロシマとフクシマの違いはあるぞ…
ヒロシマの加害者はアメリカだけど、フクシマは？
「原発は安全」と信じていた、原発の電力の享受者だし、経済恩恵も。
→自分も「もうひとりの東電」としての「現代人」。騙す側であった…。
自覚したうえで、考えたい。（『チッソは私であった』）
…水俣研修へ宿題
※『遠野物語』には1896年の三陸津波の話も。
百余年後のイチエフ訪問者には、
ぜひ私たちが生きた「現代」の残余を自分事として戦慄してほしく思った。

最近考えたこと

・事故が起こってしまったことはしょうがない
でも事故に意味を見出さなければ、双葉郡の土地は、人は、
意味なくただ汚され捨てられることになってしまう。
戦慄し、現代を見直す契機に
・「イチエフは地域最大の文化資産だ」と言えるようになりたい
（小松理虔『新復興論』「治すことを目指すのでなく、これから一生付き合っていくべきものとして受け入れる」）
・「福島は（浜通りは・ふたみらは）イチエフより大きい」
ｃｆ:谷川健一「水俣は水俣病より大きい」

早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター主催
シンポジウム「広島原爆ドームの世界遺産登録と1F 廃炉の将来像を考える」

「地域の価値」をどうつくりだすか

2021年11月14日（オンライン）

よけもと　まさふみ
除本　理史
（大阪市立大学）

※環境経済学・環境政策論。公害・環境被害の補償と費用負担。福島原子力発電所事故の賠償、復興政策の研究。『公害から福島を考える』（岩波書店、2016年）など

除本・佐無田（2020）『きみのまちに未来はあるか？
―「根っこ」から地域をつくる』岩波ジュニア新書

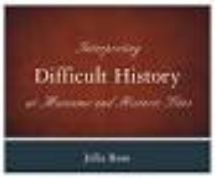
1

「困難な過去」（大事故、戦争、災害など）も「地域の価値」を構成しうる

- 近代を問う、教訓化（井出明）
- 被害回復、復興のプロセスがストーリー価値を構成する
- But「意味づけ」が立場によって分裂しやすい
- ⇒多様な立場をふくむ開かれた議論の場が必要
- 地域内での学びと共有
- 学ぶ側と受け止める側とが歴史解釈を共同生産する(Public History)

■「困難な歴史difficult history」を解釈（解説）(interpretation)することの便益（Rose, 2016, pp.48-62）

- 希望を醸成する
- 記念・祝賀・称揚⇒アイデンティティの創出（個人、集団）
- 社会的正義の擁護
- 喪に服すこと：「死」に意味を与える。歴史的な目印や伝承施設の開設は、遺族の悲しみを和らげる
- 「このようなことを繰り返してはならない」と考える人を増やすことが、償いになる(pedagogical reparation)



公害地域再生の事例

水俣「もやい直し」(1990年代～)の経験から(2章)

■水俣市は典型的な「企業城下町」

・水俣病患者が、生命や健康を侵害されたことへの償いとして、チッソに対し正当な補償を求めた。

・しかし、多くの市民は、企業が衰退して生活がおびやかされることを心配。本来、多くの市民もメチル水銀の影響を受けた被害者だった。

・にもかかわらず、被害者と加害者との関係が、被害者と地域全体との対立関係におきかえられてしまい、住民同士が立場の違いによって反目させられることになった。

■公害による地域社会の崩壊を乗り越え、地域の再生をめざすため、当時の吉井正澄市長は「もやい直し」という標語をかかげた⇒水俣病の「前面化」、地域固有の価値

3

「もやい直し」の意義(pp57-9)

「〔地域の〕個性とは、他をもって代えることのできないその地域における価値です。ほかのことで代替できない価値です。・・・たった一つ、水俣にしかない個性があります。それが公害の原点と言われる水俣病ですね。・・・これこそが水俣の個性だと思います。

ところが、この個性は今まで水俣市民を苦しめてきた、すごく強烈なマイナスの個性だったんですね。これがまちづくりに役立つのかとだいぶ批判されました。しかし私は、逆だと思っているんですよ。」(吉井正澄・元水俣市長)

⇒ 「困難な過去」を価値に反転させることで、分断を修復し、ビジネスや地域振興につなげる(cf遠藤邦夫『水俣病事件を旅する』国書刊行会、2021⇒水俣病事件を「文化遺産」と捉える)

4

例1）水俣病の学習（水俣市立水俣病資料館入館者数：2017年度は4万1250人）を観光振興と結びつける努力

環不知火プランニング：2017年度受入実績：教育旅行が2292人，視察研修が622人（うち地域内宿泊がそれぞれ925人，73人）

相思社の2017年度受け入れは570人

例2）水俣病患者による甘夏生産とその加工販売：　水俣病事件に対する「伝承」と一体

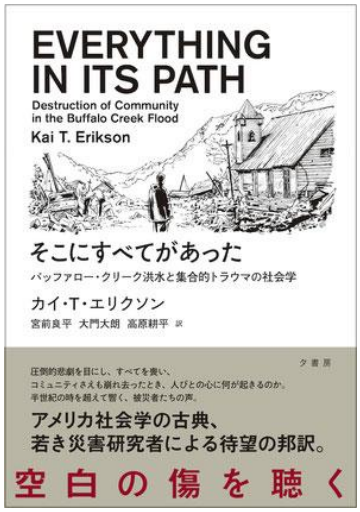
5

神戸はどうだった？

広島原爆ドームの世界遺産登録と1F廃炉の将来像を考える（第1部）

高原耕平（人と防災未来センター）

2021/11/14



https://yomu.hateblo.jp/

https://researchmap.jp/takahara1983/

- 高原耕平（たかはらこうへい）
- 1983年　神戸生まれ
  - 神戸大学工学部情報知能工学科中退
  - 大阪大学大学院文学研究科・**臨床哲学**研究室
  - 博士（文学）
  - re28000@gmail.com
- 人と防災未来センター（2019～）
  - 阪神淡路大震災の「震災学習」と記憶継承
  - 減災システム社会の技術論

だれのための、
だれにとっての、
なんのための
世界遺産登録？

だれのための、
だれにとっての、
なんのための
世界遺産登録？

１）地域の人々にとって：

復興や物語行為の軸のひとつ

２）世界・日本の人々にとって：

人類の「経験・智慧」の結晶

３）未来の人々にとって：

過去からの「贈りもの」

だれのための、
だれにとっての
なんのための
世界遺産登録？

当事者性

地域の人々にとって：

復興や物語行為の軸のひとつ

普遍性

世界・日本の人々にとって：

人類の「経験・智慧」の結晶

世代性

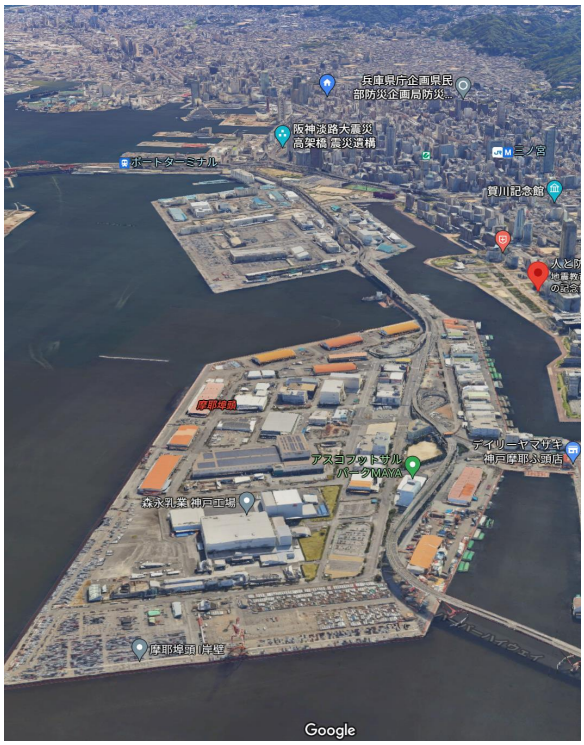
未来の人々にとって：

過去からの「贈りもの」

「当事者性」

現実の風景
→遺構ではなく復旧対象

それ以外のもの
→「こころ」の問題に



手記の量産

職場・学校・地域単位で手記集編纂（多くは私家版）
　各種報告書や雑誌・業界誌などにも掲載

公刊は直後数ヶ月～１年に集中
　継続的な編纂はごく少数（高森・諏訪2014）

直後期の手記ほど物語の「形式」が共通
　①発災前日の様子（いつも通りの夜/奇妙な予感）
　②揺れとその直後の描写
　③次の行動の設定、移動（職場へ急行/安否確認/避難）
　④待機中/移動中に見聞きしたものの描写
　⑤核心の行動（無我夢中の活躍）
　⑥ふりかえっての実感（人間の暖かさ/醜さ、防災）

→　共通の「ミュートス」（アリストテレス）、
　　「機能」（プロップ1928）

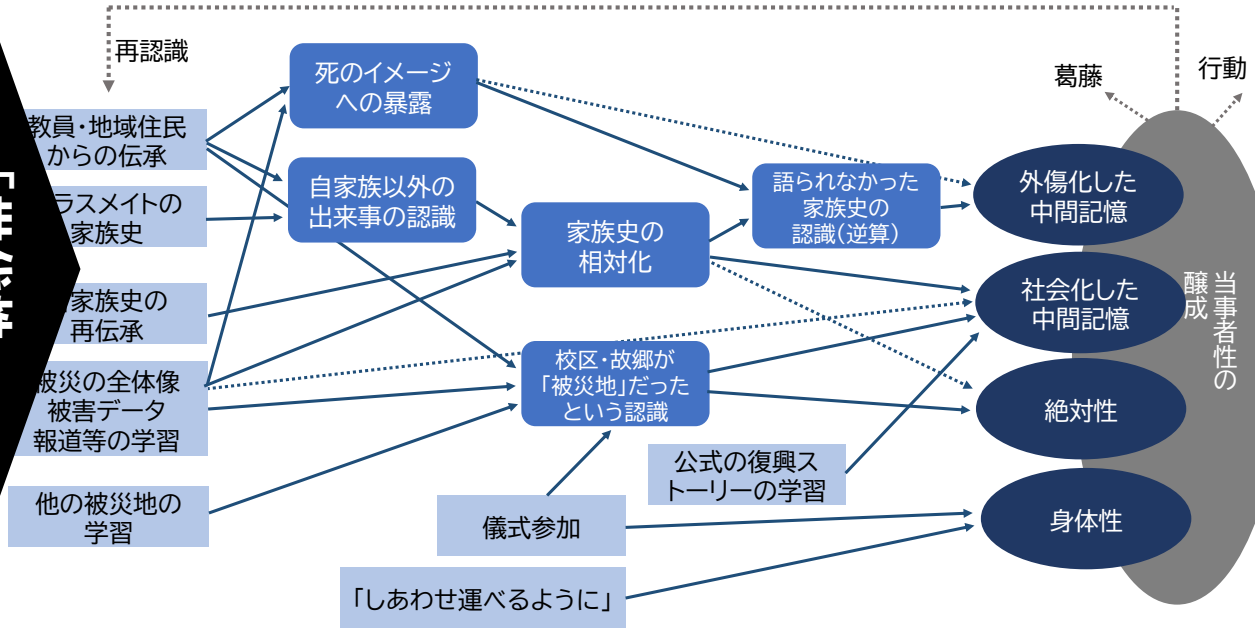
「事前」

「防災」！

人と防災未来センター（2002-）

- **博物館機能**：年間50万人
- **研修機能**：自治体災害対策担当職員（年200人前後）、市町村長（年3県）
- **研究者の育成**：
  常時9名ポスドク（任期雇用）
  ＋自治体出向職員、報道関係者など
  →40名近くの大学教員を輩出

他にも、
▶WHO健康開発総合研究センター　▶JAICA関西
▶兵庫県立大学減災復興政策研究科　▶関西学院大学復興制度研究所
▶関西大学社会安全学部　▶神戸学院大学現代社会学部現代防災学科
▶兵庫県立舞子高校環境防災学科
▶兵庫県災害医療センター（全国2箇所のDMAT研修拠点の一つ）

「事後」

学校での「震災学習」